

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 29 日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520212

研究課題名(和文) 萬葉集の新総合校本による古写本・撰集・歌学書の本文訓読研究

研究課題名(英文) Study on the text and reading of old codices, anthologies and "waka" studies by new revised synthetic text of "MANYOSHU"

研究代表者

林 勉 (HAYASHI, Tsutomu)

東京学芸大学・教育学部・名誉教授

研究者番号：50014858

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：新校本底本とすべき西本願寺本複製翻刻の文字の再確認と誤脱訂正を続け『校本萬葉集』等
にないヲコト点・返点・合符等の校異も他の古写本にも試みた。古写本中仙覚新点本の青色書入の他に他本との校合を
示す朱・赭筆書入のある京都大学曼朱院本の原本調査を終了した。また次点本で平安中後期写本で極めて年代古く極め
て歌数多く校異も朱の他赭筆書入の多く価値高い元暦校本の調査も東京国立博物館のご助力頂き開始出来た。また萬葉
歌を分類再編した古葉略類聚鈔の調査は進めたが平安末期書写の類聚古集の調査も始めたい。五代簡要等歌学書、古今
和歌六帖等撰集、契沖等萬葉研究も続けて進めたい。

研究成果の概要(英文)：The new revised synthetic text of "MANYOSHU" - "Nishihonganji-bon MANYOSHU".
Continued to confirm and correct the misses and try to differ among codices of "okoto-ten"
"kaeri-ten" and "go-fu" marks which were not taken yet by "Kohon-MANYOSHU" etc, finished the
research of "Kyotodaigaku, Manshuin-bon MANYOSHU" which has blue letters entry of "Sengaku-bon" and
red and red-black letters among other codices.
Research "Genryaku-kohon" which is very old and largest among the "Jiten-bon" and has many red and
red-black letters, opened from vol.1 and 2 by support of Tokyo National Museum. And research of
"Koyoryakuruijusho" was reclassified "MANYOSHU" poems was forwarded, and wish to research
"Ruijukoshu" which was written in late Heian ages also. Anthologies- "Kokinwaka-rokujou" etc,
"Godaikanyo" and studies on "MANYOSHU" -Fujiwara Syunzei, Teika, and Keichu etc, must be continued.

研究分野：人文学

 キーワード：萬葉集古写本古版本 西本願寺本萬葉集 萬葉集校本の形式内容 萬葉集新点本の青書・赭書 京都大
学本萬葉集 元暦校本萬葉集 撰集歌学書の萬葉歌調査 萬葉集注釈書調査

1. 研究開始当初の背景

(1)戦前、佐佐木信綱氏中心に萬葉集の古写本の複製が多く出されて来たが、戦後も盛んに出、また自らも神宮文庫本と西本願寺本普及版制作に当り、その重要性を感じた。

(2)同じく佐佐木信綱氏中心に『校本萬葉集』が刊行され、その増補版・新增補版が追補されたが、古写本の原本調査の結果と必ずしも一致せず、また同一歌も数度数冊を確かめる必要から一度でなるべく引く校本作成の必要を感じた。

2. 研究の目的

(1)萬葉集の古写本に今一度実見して諸本の異同を確認すること、またより正確な校本を作成するの必要を感じた。

(2)校本の底本として『校本萬葉集』が寛永版本を使用することはその後戦前まで研究の底本として使用されて来た意義を持つが、現在は全巻完備して最古の西本願寺本が使用されているのでこれを底本とする意義があると考えた。

3. 研究の方法

(1)各古写本の実態に直接触れて、従来の調査を更に行うこと。

(2)『校本萬葉集』の記述また諸注釈書類やその転写本なども参考にすること。

4. 研究成果

(1)新校本の底本となる西本願寺本の翻刻の見直しは随時行ない、訂正版を作成(2006)したが、その後十数カ所指摘して来ている。

(2)西本願寺本系の田中本の調査校異(2007)に次ぎ同系阿野本の調査を始めたが、原本による再確認が残されている。

(3)新点本の調査は略終っているが、その他本との校合書入の多い京都大学曼朱院旧蔵本について朱、青、特に赭、別青書入の調査と『校本萬葉集』記述の確認訂正(623カ所)が終った。

(4)次点本中、平安後期で古く歌数も極めて多

い元暦校本の調査が東京国立博物館のご協力を頂き始められ、巻一上と巻二の調査を行ない、『校本萬葉集』に記述のない赭書入等(32カ所)を発見し、引続き以下の各巻の調査を続けたく希望している。

(4)補記 元暦校本調査

巻一上・巻二調査の成果は次の通りである。

巻一上

- 1オ3八 朱書ノ上二第一画ノミ墨重書。
ウ1幸 右肩二字高ヲ下ゲル朱符。
- 2ウ1(赭)文 左二朱「天」。
- 3オ3藤 右肩ヨリ「御」マデ下ゲル朱符。
5過以下ヲ「柿」以下ト上下入換ノ朱符。
7幸 右肩ヨリ「國」マデ下ゲル朱符。
ウ2幸 右肩ヨリ「野宮」マデ下ゲル朱符。
- 4オ3藤 右肩ヨリ「御」マデ下ゲル朱符。
7幸 右肩ヨリ「御」マデ下ゲル朱符。
ウ2幸 右肩ヨリ「野宮」マデ下ゲル朱符。
- 4オ3藤 右肩ヨリ「御」マデ下ゲル朱符。
7幸 右肩ヨリ「國」マデ下ゲル朱符。
ウ2幸 右肩ヨリ「阿」マデ下ゲル朱符。
- 5オ1従 右肩ヨリ「香」マデ下ゲル朱符。
2御井歌 別筆。
3大 右肩ヨリ「年」マデ下ゲル朱符。
ウ2首 右傍朱線。
4慶 右肩ヨリ「三」マデ下ゲル朱符。
- 6オ3ム 赭ノ上二墨重書。
5太 右肩ヨリ「天」マデ下ゲル朱符。
6大 右肩ヨリ「天皇」マデ下ゲル朱符。
ウ3大 右肩ヨリ「皇」マデ下ゲル朱符。
- クオ2三 右肩ヨリ「庚戌」マデ下ゲル朱符。
5五 右肩ヨリ「子」マデ下ゲル朱符。
7寧 右肩ヨリ「宮」マデ下ゲル朱符。
- 8ウ1能 上部原字不明、重書訂。
- 12ウ3焉イ 別筆カ。
- 15オ1つ 左朱「二」。
- 16オ4秋 左下赭「山」。
- 17ウ3載 左赭「裁或本作之」。
- 19ウ3左朱「ヲミノオホキミ」本文右二移ス朱符。

巻二

- 25ウ1ワタリ 「リ」右傍赭書入アリ。「タ」カ「カ」カ。

(5)古版本中活字無訓本は大英図書館でも嘗て閲覧したが、内閣文庫等にあり、希少といわれる活字附訓本につき東京大学図書館鷗外文庫で調査を始めた。

(6)類纂本では古葉略類聚鈔は索引も済んでいるが、類聚古集は索引も出ており、原本調

査が準備中の段階である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計26件)

林 勉、兼右本敏達紀訓点の敬語表現 体言、論集上代文学、査読無、36冊、2014、173 - 180

林 勉、垂仁紀・垂仁記古写本訓点の敬語表現—沙本毗古・狭穂彦の乱、論集上代文学、査読無、35冊、2013、135 - 143

林 勉、垂仁紀古写本訓点の敬語表現(版本生死の敬避表現)、論集上代文学、査読無、34冊、2012、155 - 161

林 勉、垂仁紀古写本訓点の敬語表現(版本用言謙讓語)、論集上代文学、査読無、33冊、2011、145 - 153

伊藤 一男、古今和歌六帖標注重載歌考(4)、旭川国文、査読無、27号、2014、1 - 14

伊藤 一男、古今和歌六帖標注重載歌考(3)、旭川国文、査読無、26号、2013、8 - 27

伊藤 一男、古今和歌六帖標注重載歌考(2)、旭川国文、査読無、25号、2012、11 - 36

伊藤 一男、万葉集の表記における選字意識、語学文学、査読無、50号、2012

岩下 武彦、うたことば「天雲」の用法、紀要 言語・文学・文化、査読無、115号、2015、1 - 18

岩下 武彦、うたことば「天雲」の成立、紀要 言語・文学・文化、査読無、113号、2014、1 - 20

岩下 武彦、「天離る夷」考 都の美と夷の情、美の万葉(高岡市万葉歴史館論集15)、査読無、2014、27 - 57

遠藤 宏、万葉集の孤語(一) 予備的な調査、論集上代文学、査読無、36冊、2014、1 - 18

遠藤 宏、大伴家持「霍公鳥と藤の花とを

詠む一首」(巻一九・四一九二)の序詞をめぐって、論集上代文学、査読無、35冊、2013、51 - 70

遠藤 宏、安藤野雁考・補(その九) その著『万葉集新考』研究の基礎としての伝記、論集上代文学、査読無、34冊、2012、99 - 131

遠藤 宏、安藤野雁考・補(その九) その著『万葉集新考』研究の基礎としての伝記、成蹊国文、査読無、44号、2011、1 - 12

小野 寛、万葉集講読(二三〇～二二〇)大伴家持をよむ(46-36)、四季、査読無、41巻4～38巻3号、2014-2011、2-3 " " " 12-3 " " " "

小野 寛、家持の「時の花」三首考、論集上代文学、査読無、35冊、2013、71 - 87

小野 寛、万葉集「ことば」考(351～328)、コスモス、査読無、2013-2011、727 - 704号、75、13 - 13

小野 寛、大伴家持の美 卷十九卷頭越中秀吟、美の万葉集(高岡市立万葉歴史館論集15)、査読無、2012、281 - 307

曾倉 岑、万葉集『天地の神』の表現と特性(下)、論集上代文学、査読無、35冊、2013、1 - 15

⑲曾倉 岑、万葉集『天地の神』の表現と特性(上)、論集上代文学、査読無、34冊、2012、1 - 13

⑳曾倉 岑、万葉集作歌年代不明の「天地の神」、万葉集研究、査読無、32巻、2011、79 - 105

㉑曾倉 岑、笠女郎の「天地の神」、論集上代文学、査読無、33冊、2011、63 - 78

㉒内藤 明、岡部隆志・工藤隆・西條勉編『七五調のアジア 音数律からみる日本短歌とアジアの歌』、日本文学、査読無、60-8、2011、70 - 71

㉓内藤 明、万葉秀歌を読む(34 - 最終回)、短歌現代、査読無、35、2012-2011、1 - 12

②山崎 福之、萬葉集漢語考証補正(五) 考証の課題、萬葉集研究、査読有、32巻、2011、199 - 225

〔学会発表〕(計 6件)

林 勉、萬葉集古写本・古版本について
活字附訓本を中心に、2014.7.24、学士会館
(東京都)

林 勉、京大本萬葉集について 卷一・二
にみられる別青書入、2013.7.26、学士会館
(東京都)

林 勉、西本願寺本 (田中本) 阿野本萬
葉集、2012.7.14、東方学会(東京都)

林 勉、萬葉集の“春の歌”、2012.4.18、
大阪中央電気倶楽部(大阪市)

林 勉、契沖書簡一通 (元禄十年)十一月
廿六日宛名未詳、2011.7.30、東方学会(東
京都)

林 勉、萬葉集の浪漫をたずねて 七夕歌
へ、東京雑学大学、2011.7.21、西東京市
民会館(東京都)

〔図書〕(計 6件)

山崎 福之 他、岩波書店、萬葉集(五)、
2015、371

山崎 福之 他、岩波書店、萬葉集(四)、
2014、463

山崎 福之 他、岩波書店、萬葉集(三)、
2014、489

山崎 福之 他、岩波書店、萬葉集(二)、
2013、481

山崎 福之 他、岩波書店、萬葉集(一)、
2013、531

小野 寛、笠間書院、大伴家持(コレクシ
ョン日本歌人選 042) 2013、126

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

林 勉 (HAYASHI, Tsutomu)
東京学芸大学・名誉教授
研究者番号：50014858

(3) 連携研究者

伊藤 一男 (ITO, Kazuo)
北海道教育大学・教育学部・教授
研究者番号：30176325

岩下 武彦 (IWASHITA, Takehiro)
中央大学・文学部・教授
研究者番号：00044735

遠藤 宏 (ENDO, Hiroshi)
成蹊大学・文学部・名誉教授
研究者番号：20086284

小野 寛 (ONO, Hiroshi)
駒澤大学・文学部・名誉教授
研究者番号：90082916

内藤 明 (NAITO, Akira)
早稲田大学・社会科学総合学術院・教授
研究者番号：30180219

山崎 福之 (YAMAZAKI, Yoshiyuki)
京都府立大学・文学部・教授
研究者番号：70220324

(3) 協力研究者

鈴木 美弥 (SUZUKI, Miya)
東洋大学・非常勤講師

八木 京子 (YAGI, Kyoko)
日本女子大学・非常勤講師